

## 令和3年度 長与北小学校 学校評価(年間)

○調査対象・期間 児童・保護者・教職員アンケート実施 令和3年11月29日～12月6日

学校関係者評価 令和4年2月14日

R3 学校評価 児童アンケート		児童
1	長与北小学校が好きである。	3.4
2	長与北小学校の友達は今がよい。	3.5
3	授業はわかりやすい。	3.4
4	いじめのない学級・学校づくりに取り組んでいる。	3.3
5	先生方は、いろんな相談に対応してくれる。	3.4
6	きれいな学校を目指し、掃除や環境美化に努めている。	3.5
7	北小ファイトや体育の時間などの活動をとおして、体力づくりに努めている。	3.6
8	マスクの着用や手洗い・消毒など、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めている。	3.6
9	毎日、朝ご飯を食べるなど、規則正しい生活を送っている。	3.5
10	学校は楽しい。	3.4
11	進んで家族や地域の方にあいさつしている。	3.4
12	家庭学習をする習慣が身についている。	3.3
13	家庭でも読書をしている。	2.9

R3 学校評価 保護者アンケート		保護者
1	学校は、学校便りや学年・学校便りなどで、教育目標や子どもの学習・生活の様子を家庭へ知らせている。	3.5
2	学校は、育友会や地域、関係団体との連携を図り、協力的である。	3.4
3	学校は、子どもにわかる授業づくりに努め、学力向上に取り組んでいる。	3.4
4	学校は、いじめの実施把握や早期発見に努め、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。	3.2
5	学校は、子どもや保護者の連絡・相談に適切に対応している。	3.4
6	学校は校舎内外の環境美化・整備に努めている。	3.4
7	学校は、北小ファイトや体育の時間などの活動をとおして体力づくりに努めている。	3.5
8	学校は、マスクの着用や手洗い・消毒など指導や、三密の対策など子どもの健康に関する対応（新型コロナウイルス感染拡大防止）に努めている。	3.5
9	お子さんは、毎日朝ご飯を食べるなど規則正しい生活を送ることが出来ている。	3.4
10	お子さんは、学校に行くのを楽しみにしている。	3.4
11	お子さんは、進んで家族や地域の方に挨拶をしている。	3.2
12	お子さんは、家庭で学習する週間が身についている。	3.2
13	お子さんは、家庭でも読書をしている。	2.8

R3 学校評価 学校関係者評価		学校関係者
1	豊かな心の育成 「いじめ、不登校への適切な対応」	3
2	豊かな心の育成 「基本的生活習慣の向上」	3
3	基礎学力の充実 「学習規律の徹底」	3
4	基礎学力の充実 「家庭学習の習慣化」	3
5	健康安全教育の推進 「基礎体力の向上」	3
6	健康安全教育の推進 「安全教育の推進」	3
7	特別支援教育の充実 「一人一人のニーズに応じた支援」	3
8	特別支援教育の充実 「自己有用感を高める指導」	3
9	国際化への対応 「外国語教育の充実」	3
10	国際化への対応 「地域の伝統文化の理解」	3
11	教育環境の整備 「整理整頓、掃除の徹底」	3
12	教育環境の整備 「校舎内外の環境美化」	3
13	教職員の資質向上 「指導力の向上」	3
14	教職員の資質向上 「組織としての指導」	3
コメント	<p>・各評価は妥当である。様々な工夫を凝らして教育に当たられていることに対して感謝と敬意を申し上げる。今後、北小が益々すばらしい学校になることを期待している。</p> <p>・コロナ対策に対する先生方の大変な苦勞と努力がうかがえた。「健康安全教育の推進」の評価は4だと思う。</p> <p>・タブレットドリルを活用した学力向上では、学校独自の利用促進のための取組を行い、ICTの学習ツールとしての認知度を高めていた。引き続き教育のICT化に向けて尽力してほしい。</p>	

R3 学校評価 教職員アンケート（自己評価）		教職員
1	【広報活動の充実】日頃から保護者に学年通信・学級通信などを通して、学校教育目標や学年目標・学級目標・各種連絡を保護者に理解されるような努力を行った。	3.3
2	【開かれた学校づくり】教育週間や授業参観・懇談会などを通して、家庭や地域との連携を密にし、開かれた学校づくりに努めた。	3.5
3	【特別支援教育】特別支援学級や通級指導教室へ通う児童、全ての児童の実態や困り感を理解し、指導の改善や充実に努めた。	3.5
4	【教育相談】日頃の児童観察や「なかよしアンケート」、「生活アンケート」、児童との個人面談、家庭からの連絡などをとおして児童の実態を把握し、適切に対応するように努めた。	3.4
5	【情報管理】児童や保護者・家庭環境などに関する各種の情報の取扱について細心の注意を払った。	3.6
6	【やりがいのある職場づくり】学校教育目標を基軸として、全職員による共通目標の下、協働性・同僚性により、やりがいのある職場となるよう努めた。	3.5
7	【働きやすい職場環境】協働性・同僚性、また環境面などから本校は働きやすい職場環境だと感じる。	3.4
8	【教科指導の充実】学力向上のために教材研究に努め、明確な指示や発問の工夫などによる分かりやすい授業の展開に心がけるなど、授業改善に努めた。	3.5
9	【学習環境・学習規律の統一①】学習規律（「見る」「聞く」「話す」等 学びの約束）が子供に身につくように指導の充実に努めた。	3.4
10	【学習環境・学習規律の統一②】毎時間の授業では、学習目標に沿った分かりやすいめあてを板書し、子供に授業のねらいを明確に指示することができた。また、めあてと整合性のあるまとめを行い、学習の押さえをすることができた。	3.3
11	【基礎・基本の確実な定着】家庭と連携した家庭学習の徹底・充実に努め、自主的な学習の習慣化を図ることができた。	3.3
12	【校内研修】校内研修では、授業改善の意識をもって話し合いの中で自分の意見を述べたり、研修全体の具体化や活性化に貢献したりするように努めた。	3.1
13	【読書活動】学級（学校）の子供が様々な書籍に親しめるように指導の充実に努めた。	3.2
14	【国際理解】外国語科や外国語活動・総合的な学習の時間などとおして、英語を中心とした外国語、他国の文化などにふれながら国際理解が深まるように努め、指導の改善や充実に努めた。	2.9
15	【道徳教育の充実】道徳の全体計画をもとにして、年間指導計画（カリキュラム）に沿って、週1時間、心に響く道徳科の授業を展開することができた。	3.2
16	【いじめ0・いじめ防止対策】子供の生活の実態の把握に努め、いじめ0に向けた日常的な取組を行った。	3.5
17	【不登校0】居心地のよい学級・居りがいいある学級・学びがよいある学級を創造し、不登校0に向けた日常的な取組を行った。	3.4

18	【個々への対応】悩みをもつ子供へ適切な対応などを行い、子供相互、教師と子供の信頼関係をつくることができた。	3.4
19	【自己有用感】子供が互いに協力し合い認め合うことができる活動を設定したり、子供の頑張りを認め適切に評価したりするなど、自己有用感を高める指導の工夫を行った。	3.3
20	【タフな心の育成】子供に失敗を「恐れない」「乗り越える」力を身に付けさせるため、活動での指導・支援に工夫を凝らすことができた。	3.3
21	【あいさつ～基本的な生活習慣①～】いつでも、どこでも、誰にでも（立ち止まって、顔を見て、元気で丁寧な）挨拶ができる子供の育成を図った。	3.2
22	【言葉遣い～基本的な生活習慣②～】日常生活や授業の中で友達を思いやる言葉づかいについて考える場を設け、「ふわふわ言葉」を使う指導や場に応じた言葉遣いをする意識づけを徹底した。	3.3
23	【落ち着いた生活】落ち着いた学級・学校生活を創造するために正しい廊下歩行（はさみ歩き）について継続的に指導を行うことができた。	3.3
24	【勤労生産的な活動～黙々掃除～】共働・黙動による清掃活動を行い、美しい学校づくりにつながる心の指導を行った。	3.2
25	【基礎体力の向上】体育の授業・北小ファイトにおける運動量をしっかりと確保し、また外遊びを推奨し、子供たちの体力づくりを促した。	3.3
26	【健康教育の推進】「早寝・早起き・朝ごはん」や「ノーメディア」などの取組をとおして、健康的な生活の充実に努めた。	3.3
27	【食育の推進】給食時間や各教科や領域の指導の中で「食」の重要性についての指導を行い食育の推進に努めた。	3.4
28	【安全教育の推進①】交通安全・不審者対応・防災などに関する指導を継続的に行った。	3.5
29	【安全教育の推進②】教室環境や教材の保管など安全への配慮は適切に行った。	3.5
30	【安全教育の推進③】「長与北小学校 生活のきまり」を子供たちが理解し、そのきまりを守った生活を送れるよう、継続的に指導を行うことができた。	3.4